

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書（１頁）

2012年2月17日提出

申請年度	2011年度（平成23年度）		
所属学科	臨床心理学科	報告者・職氏名	准教授・陸君
海外出張内容 (種別に)	目的：米国・シアトルで開催される“Modern Language Association 127th MLA Annual Convention”「第127回アメリカ現代言語学 会」に参加 訪問国・地域：米国（シアトル，テキサス） 助成額：250,000円		・学会 (発表有/無) ・調査 ・会議 ・セミナー
期 間	2011年12月24日（土）～2012年1月7日（土）		13泊14日
上記出張期間 の研究・調査 等活動経過	12月24日・・・京都 伊丹空港 成田 サンフランシスコ		
	12月25日・・・サンフランシスコ-----テキサス州のオースティンへの移動		
	12月26日・・・オースティン大学Human Ecology学部の特チン教授との研究懇談		
	12月27日・・・キャンパス見学と外国語学部にて留学生教育の事情調べ		
	12月28・29日・・・図書館での資料収集		
	12月30日・・・ホテルでの休憩と論文準備		
	12月31日・・・同上		
	1月1日・・・同上		
	1月2日・・・オースティン大学図書館にて資料収集		
	1月3日・・・臨床心理学部の提携校テキサス州立Texas A&M Universityへの訪問		
	1月4日・・・オースティン空港 シアトルへ、夕方学会ホテルに登録手続き		
	1月5日・・・学会の参加		
	1月6日・・・学会の参加・ACE学院長との会談・シアトルから日本へ		
	1月7日・・・日本成田空港到着、伊丹空港 京都へ		
研究・調査 発表等概要	<p>The University of Texas at Austin大学 への訪問について</p> <p>12月26日：午後1時ごろ、School of Human Ecology (人間環境学大学院)のDr. Jonathan Y. Chen教授との研究懇談。</p> <p>チン教授の専門は、現代社会における環境学を中心に新しい材料の開発する一方、アメリカの学生を積極的に外国での研修に連れて行き、また留学生の受け入れと指導も熱心に行われている。今回は主に、彼の研究チームに参加するアメリカ人学生達への外国語の訓練や生活指導、且つ留学生への研究用英語の指導について意見交換をした。</p> <p>12月27日、キャンパス見学と外国語学部の留学生教育センターでの資料調べ。</p> <p>12月28、29日、大学図書館でのアジア系アメリカ文学や語学教育の資料収集。</p> <p>12月30日～1月1日、Texas A&T Universityへの訪問の事前準備と国際交流担当者とのメール連絡。ホテルで資料整理と論文準備。</p> <p>1月2日、大学図書館にてヘミングウェイ文学作品に関する研究資料調べ。</p> <p>A&T Universityへの訪問について：1月3日午後1時ごろ、本学・臨床心理学部の提携校である、テキサス州立農工大学のCollege of Liberal Artsにて、国際交流担当者Christie Dunnと心理学部准教授・Takashi Yamaguchiとの懇談、両大学の交流協定の更新について意向を確認した。</p> <p>「第127回アメリカ現代言語学会」の参加について（詳細は別紙参照）</p> <p>1月4日の夕方にシアトルにある学会会議場兼ホテルに到着。その後すぐ、学会参加の登録手続きと研究発表スケジュールの確認をした。5日の8時30分から6日の午前まで研究発表の聴取。その合間の一時間程、昨年夏に訪問したシアトル太平洋大学の語学研修校ACEの主任・Samuel M. Shepherdと会い、本学大学生の夏・春休みの語学研修コースの可能性と実行性について話し合いをした。</p>		

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書（２頁）

研究・調査発表等々の成果の概要	<p>の The University of Texas at Austin 大学 への訪問成果について。</p> <p>アメリカの大学における外国留学生の受け入れ体制や教員指導の方針などの具体性をよく分かり、アメリカ本国の学生を外国へ研修させる仕組みの情報も入手した。</p> <p>この訪問によって、チン教授との留学生応援連携を固め、オースティン大学生による中国上海や南通にある大学への短期留学プログラムの実現に向けて力を加えた。</p> <p>また、自分の研究分野である、アジア系アメリカ文学やヘミングウェイ文学研究の新しい資料収集も出来、特にその大学の書店で 2011 年末に出版されたばかりのヘミングウェイ研究の新書「The Letters of Ernest Hemingway 1907-1922」を入手したことが、これからの研究に大きな役割を果たすことが期待できる。</p> <p>のテキサス州立 A&T University への訪問成果に関して。</p> <p>本学臨床心理学部教員と国際交流委員会の代表としての初めての現地訪問は、両大学の交流関係の増進にとっても意義があり、今年からの提携校更新手続きを円滑的に進めるにも大きな役割を果たした。</p> <p>の「第 127 回アメリカ現代言語学会」の参加成果は、以下の二点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アメリカ及び海外における英語教育現場の先生方の最新議論を聞くことができた。特に digital media 利用の戦略や評価について、新しい情報を得た。 2) アメリカ文学研究及びアジア系アメリカ文学研究の最新鋭の研究動向を把握できた。二人の大作家 Ezra Pound と James Joyce の関係、Postnationalism や The Language of Hospitality in Literature, または Secret Man: Martin Wong's Influence across culture and Medium in 1980's New York City の発表により今後の研究の方向性が明確になった。
研究・調査発表等々の成果発表予定	<p>雑誌論文： 来年の「現代言語学会」に文学、あるいは英語教育研究について発表をする予定。</p> <p>図 書： アメリカヘミングウェイ学会誌「The Hemingway Review, Fall Issue 2012」あるいは、日本ヘミングウェイ協会研究誌「The Hemingway Review in Japan」2012 号に "Hemingway's China Trip and His Works" のタイトルで投稿する予定。</p>

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書（3頁）

2012年2月17日提出

<p>現地の写真</p>	<p>学会/会議：会場風景 調査：調査地の様子 セミナー：会場の様子 “Modern Language Association 127th MLA Annual Convention”</p> 
<p>活動状況の写真</p>	<p>学会/会議：発表時(聴講時)の様子 調査：調査実施時の様子 セミナー：聴講時の様子 学会でのセッションの様子</p> 
<p>協力者などの写真</p>	<p>学会/会議：運営担当研究者あるいは知己の研究者 調査：研究協力者 セミナー：主催者/講師 School of Human Ecology (人間環境学大学院)の Dr. Jonathan Y. Chen 教授と</p> 
<p>その他関連写真(任意)</p>	<p>TAMU, College of Liberal Arts にて国際交流担当者 Christie Dunn と心理学部准教授 Takashi Yamaguchi と</p> 